



27年産米の集荷・検査について、ピークは過ぎましたが、10月末までは土、日を除くほぼ毎日集荷・検査を行う予定です。出荷最盛期には一日あたり10,000袋/30kgの玄米が次々と集荷され、農産物検査で等級が確定した後に、倉庫に収納されます。

検査状況は次のとおりです。10月9日現在、佐渡産コシヒカリについては、1等米比率89.9%、こしいぶきについては、1等米比率87.7%です。

一部地域で台風被害による格落ちがみられましたが、

1等米については粒の張りが良く、食味の数値も良好でした。



9月25日に、13回目となるトキの放鳥が佐渡トキ保護センター野生復帰ステーションで行われ、19羽が元気に飛び立ちました。トキの放鳥は、2008年に始まり、今回を含めて放鳥羽数は215羽となりました。

4年連続で自然下でのヒナが誕生しており（本年は16羽）、現在佐渡の空を164羽のトキが羽ばたいています。



コープネット佐渡トキ応援お米プロジェクトの募金贈呈式と稲刈りが10月4日に開催されました。

コープネット事業連合(さいたま市)の理事と職員、コープにいたる組合員家族、佐渡市・JA佐渡役職員と佐渡キッズ生きもの調査隊等、総勢80名以上が参加。佐渡市新穂地区のトキ交流会館で「募金贈呈式」を実施後、近くの田んぼで稲刈りを行いました。

コープネット事業連合は、2010年に佐渡市と連携協定を締結して以降、佐渡コシヒカリの販売1kgあたり1円を佐渡市トキ環境整備基金に毎年寄付されています。今年は230万円を寄付いただき、総額での寄付金額は1,000万円を超えました。佐渡市の甲斐市長から「みなさんからはこのようなご支援をいただき、心から感謝を申し上げます。トキ保護活動の皆様のお気持ちにより、佐渡の環境整備が出来ました。佐渡市認証米制度の取組みでも、佐渡米は全国的に評価されてとてもうれしい。」との挨拶の後、寄付金に対する感謝状と記念品を手渡しました。

稲刈りは、前日の降雨の影響で水がたまっているところもありましたが、15aの田んぼの大半を手で刈り取りました。大勢の親子連れや地元のキッズ等、参加者全員が力を合わせたおかげで、予定時間の1時間足らずで作業完了しました。その後、近くの田んぼ脇の用水路で生きもの調査を行いました。



実践しながら、学んでいきたいと思っています。玉葱の面積はまだわずかですが、慣れてきたらもっと増やしたいと考えています。農業は大変だけどJAの講習会や集落の先輩に教わりながら、農業だけで生活できるように努力していきたいです。」と笑顔で話されました。

本年度、佐渡市の新規就農者として認定されました。経営面積は稲500a、玉葱1aに取り組んでいます。稲刈り作業中の石川さんを訪ねました。石川さんは「農作業としては、父親が元気な頃には、田んぼの草刈や苗運び、田植え稲刈り時の機械操作といった手伝い程度しかしていませんでした。農業経験が浅かった為、父親が亡くなった時には、田んぼを人に預けることも考えましたが、農機具を一式所有していたこともあり、専業で農業をやることを決めました。専門農家になってから今年で2年目、苗作りは今年が初めてでした。稲作については、水管理の仕方や穂肥の時期などの知識と経験が少なく、これからは、少しずつ実践しながら、学んでいきたいと思っています。」

石川達也さん(いしかわ たつや 43歳)
佐渡出身、高校卒業後島外で就職し、27歳の時に佐渡に戻り、勤めながら家の農業を手伝うこととなりました。2年前に、お父様が亡くなったことから、家の農業を引き継ぐ為、勤め先を退職し専業で農業を営むことになりました。

